

第90回 グリップ交換?

フィンガーグリップは消耗品である。

ゆえに、ある程度使用したら交換する必要のあるパーツである、という事は皆さん認識している事実であると思うが、他センターで接着したフィンガーグリップを見ると、稀にもう2度と取れないレベルで接着されたものが現れたりする。

その場合、理由としては様々あるだろうが、例えばグリップが無くなるほど投げたらもう捨てるとか、交換する時はドリルで貫くとか、考えると無数に出てくるのだが、簡潔に交換できるようにしないのかと不思議に思えてくる。

そして、これを持ってこられた時の交換作業は難航を示す。

まずは隙間が無いため工具が奥まで入らず、少しずつ接着剤の部分こそぎ落としていく必要がある。

ある程度取れたら、そこからこの原理を用いて外していくのだが、接着が強いと穴の側面にグリップのかけらが残ってしまうことがある。

これを取らずにグリップを挿入しようとしても奥まで入らず、仮に入ったとしても異物の存在によって指穴が小さくなるという弊害が起きる。

ということとトリミングをしていくわけだが、これがなかなか大変で、ボールを残ったゴムごと削ってしまうわけはないのだが、そうすると穴の大きさが変わってしまうことが起きるので、ゴムを入れた際にゆるく感じることが起きるので、出来る限りボールにダメージの無いよう、切れ味の良い三角刀などで剥がしていく。

このような場合に多いのが、粗悪な接着剤でつけられたフィンガーグリップであり、接着が弱い為大量に注がれ、えらい層になっていることがある。

このような場合でも根気よくある程度剥がしてからグリップを取り付けないと、次回以降の交換時にツケが回って来ることになる。

長年使っているボールで頻繁にグリップ交換をしているものも、意図せず蓄積していき、先ほどまで述べてきた状況に陥ってしまっている事がある。

広がってしまった穴、がちがちに固まって取れない接着剤の層、場合によってはコアのふくらみによって奥まで入らないフィンガーグリップなんてものもある。

投げてる感覚が変わってしまう程の状態ならば、その場合、愛着のあるボールならば一度ドリル刃でトリミングしプラグ後再ドリルするという事も選択肢に入る。

フィンガーグリップの消耗だけでスコアが落ちるのはもったいないので、しっかり管理をしていきたいところである。

<筆者>



猫をこよなく愛し
猫に愛されたい
とあるボウラー

<好きなもの>
にゃんこ